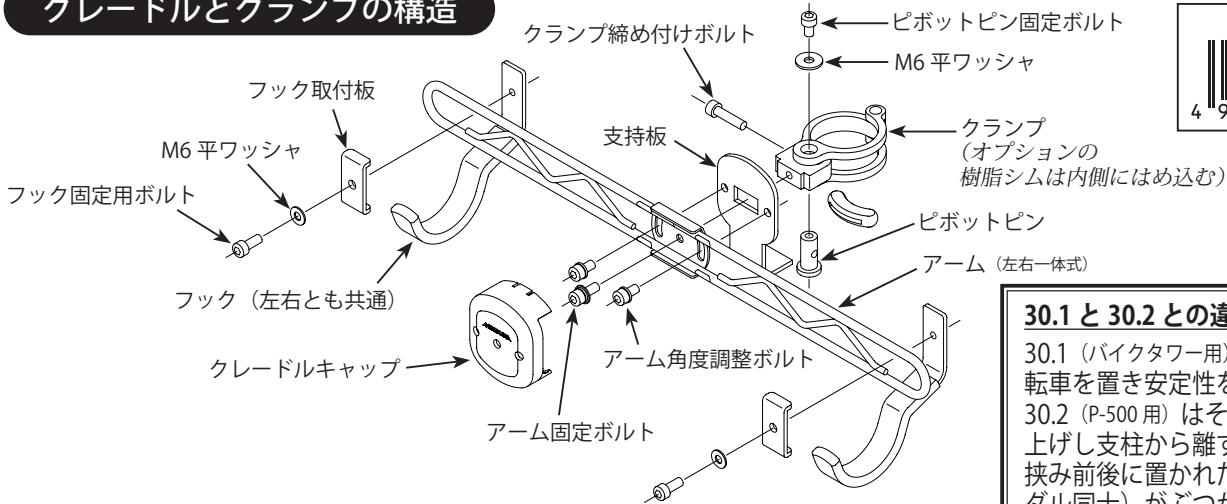


クレードルとクランプの構造



30.1 と 30.2 との違い

30.1 (バイクタワー用) は支柱に近く自転車を置き安定性を高めるもの。
 30.2 (P-500用) はそれより一段かさ上げし支柱から離すことで、支柱を挟み前後に置かれた自転車 (特にペダル同士) がぶつかりにくい設計としたものです。

クレードルの装着のしかた

- 1** クランプはクレードルに装着された状態で梱包されており、このまま支柱に取り付けていただきます。クランプは取り外さないでください。

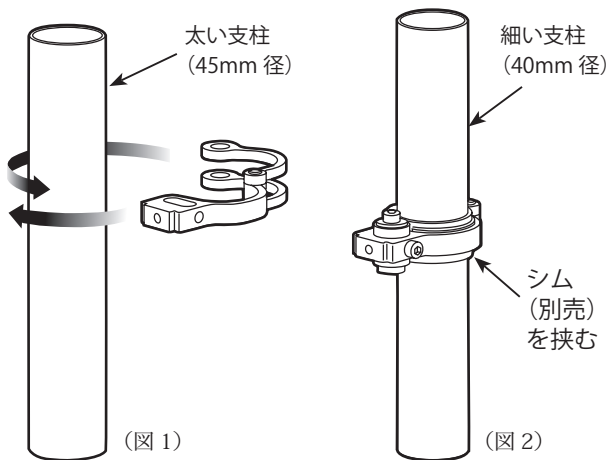


アーム連結ボルトを抜いてクレードルとクランプとを分離してしまうと、クレードルはバラバラに分解してしまいます。アーム連結ボルトは決して抜かないでください。



クランプには左右の方向性はありませんが、ピボットピンは必ず下から挿入され、ピボットピン固定ボルトは上からねじ込まなければなりません。

- 2** クランプの側面からねじ込んである締め付けボルトを抜き、ピボットピン固定ボルトを抜いてピボットピンも抜き、クランプを開けられるようにしてから、支柱に巻き付けます。(図1)



(クランプの説明のため、ここではクレードルを見せていません)



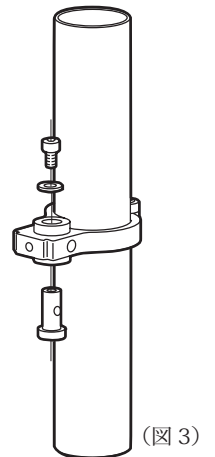
細い 40mm 径の支柱にクランプを取り付ける場合のみ、先に支柱にグレーの樹脂シム (別売) を取り付け、その上からクランプを巻いて装着します。クランプの 1 本アームがシムの 2 列の突起の間に収まるようにします。(図2)
 P-500/600 系では太い 45mm 径の支柱しか使っていないため樹脂シムは不要です。バイクタワー/バイクピット系では細い 40mm 径支柱も使っていますので、その場所にクレードルを装着したい場合のみ樹脂シムが必要になるだけです。他では不要です。

- 3** 重ね合わせたクランプの下側から 3つの孔すべてを通るようにピボットピンを通し、上から平ワッシャを通したピボットピン固定ボルトを軽くねじ込みます。(図3)



ピボットピンを上から通してしまうと、六角レンチでボルトを回せなくなります。

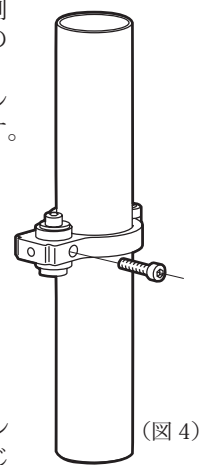
ピボットピン固定ボルトはまだ完全には締め込まないでください。次の作業が行えなくなってしまいます。



- 4** ピボットピンを回して、ピンの側面にあるネジ孔とクランプ側面の孔とを合わせます。その状態でクランプ締め付けボルトをピボットピンにねじ込みます。(図4)

- 5** 先に側面からのクランプ締め付けボルトを、続いて上からのピボットピン固定ボルトを **8N.m** で締め込んで固定します。

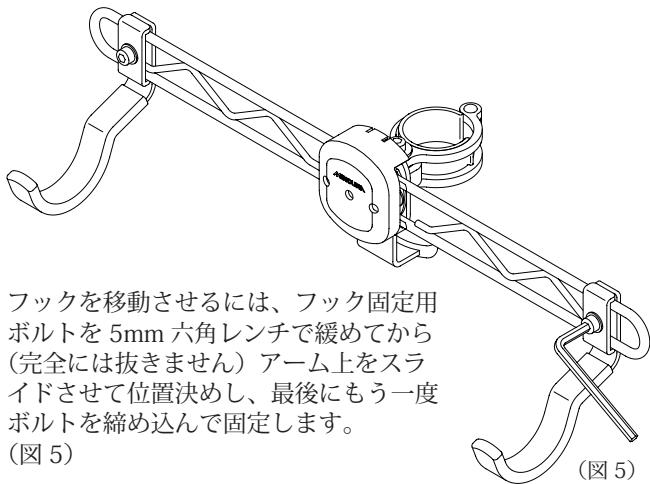
- 6** 最後に左右のフックをクレードルアームの端の金具にボルトをねじ込んで取り付け完成です。(フックは先に取り付けておいても構いません)



クレードルの幅と角度の調整

搭載する自転車のフレームサイズに合わせたり重量バランスを正しく支えられるよう、フックはアーム上をスライドさせることでその間隔を最大 415mm まで調整することができます。

またフックに掛けた自転車ができるだけ水平になるよう、アーム全体で上下 15 度の範囲で右上がりまたは左上がりに傾けてセットすることができます。



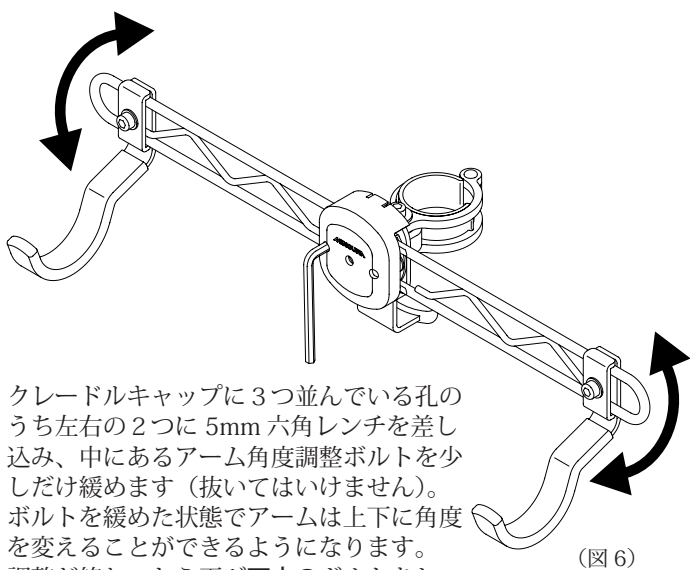
フックを移動させるには、フック固定用ボルトを 5mm 六角レンチで緩めてから（完全には抜きません）アーム上をスライドさせて位置決めし、最後にもう一度ボルトを締め込んで固定します。

(図 5)



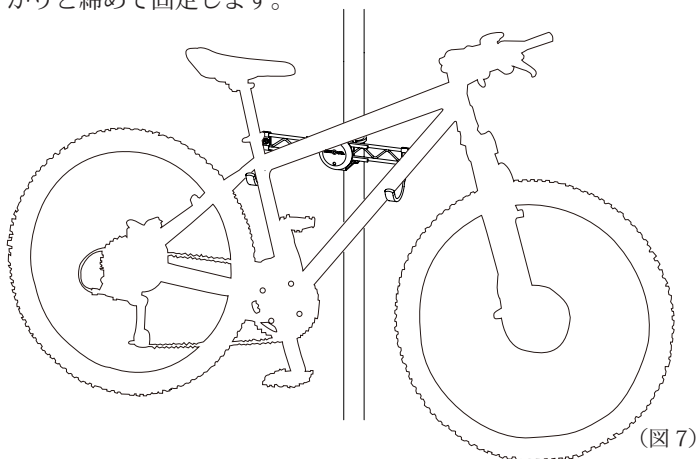
安定性を高めるため、フレームサイズや形状が許す限り、フック間隔はできるだけ広めに取ってご使用ください。

アームの角度調整のしかた



クレードルキャップに 3 つ並んでいる孔のうち左右の 2 つに 5mm 六角レンチを差し込み、中にあるアーム角度調整ボルトを少しだけ緩めます（抜いてはいけません）。ボルトを緩めた状態でアームは上下に角度を変えることができますようになります。調整が終わったら再び両方のボルトをしっかり締め込んで固定します。

(図 6)



(図 7)

クレードルからクランプが外れてしまったら

もし万一クレードルをクランプに取り付け直さなければならない場合は、クランプ側の長方形の突起を支持板の長方形の孔に正しくはめ込んでください。

そして上から見てクレードルが正しくクランプに直角になっていることを確認しながら、アーム固定ボルトをクランプにねじ込んで取り付けます。

クレードルが少しでも傾いた状態になっていると、ボルトはクランプのネジ穴に対して斜めにねじ込んでしまうこととなります。もし途中でねじ込みが止まってしまうようなら、無理してねじ込まず、必ず一度抜いてからやり直してください。

クランプはアルミ製で軟らかいので、誤って斜めにねじ込んでしまいネジ穴を破壊してしまうと、クランプをまるごと交換しなければなりません（有償扱い）。

自転車を掛ける

バイククレードルに自転車を搭載するには、フックを自転車フレームの下に掛けます。

一般的には両方のフックでトップチューブを受けるように掛けますが、トップチューブの傾斜がきついスローピングフレームやクレードルを斜めに設定した場合は、片側のフックをシートチューブとシートステーとの交差部の下に掛けて位置決めしてやり、残りをトップチューブ下で受けるようにすると安定します。(図 7)



自転車を前上がりの姿勢にしてしまうと前輪の重さでハンドルが勝手に切れ込んできて、ブレーキレバーがフレームに当たったり周囲のものを引っかけたり指などを挟んでしまうトラブルを起こす恐れがあります。

この問題を防ぐためには自転車を水平よりやや前下がりの姿勢にするか、あるいはダウンチューブと前輪とをストラップや紐などで結んで動かないようにするなどの措置が必要です。



フックによるフレームへの色移り問題は皆無ではありません。心配な方は、フックが直接フレームに接しないよう、バーテープの切れ端などを間に挟むなどして対処してください。

保証期間

本商品の品質保証期間はお買い求めから 1 年間です。期間内に発生した製造側に瑕疵のある不具合に対してのみ部品の無償交換等の対応をさせていただきます。詳しくは弊社ウェブサイトをご参照ください。

お問い合わせ先

株式会社 箕浦

〒 503-2312 岐阜県安八郡神戸町下宮 134-1

Phone (0584) 27-3131

Fax (0584) 27-7505

Mail infodesk@minoura.jp

Web www.minoura.jp

日本製